psora ト Physciacese トノ近似ヲ考慮シテ居タト推定スルハ僻目カ

【牧野云フ】 前條朝比奈先生ノ書カレタ地衣ニ和名ノナイノハ何トナク物足リナイ感ジガスルノデ誠ニ僭越ノ至リデハアルガ私ハチャールブルックネル博士ノ之レニ與ヘラレタ其學名ト同樣ノ意味デ茲ニあさひなごけノ新和名ヲ本品ニ下シ和名ヲ以テシテモ同ジク同先生ヲ紀念スルコトニシタ

○緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

杜仲軒主人

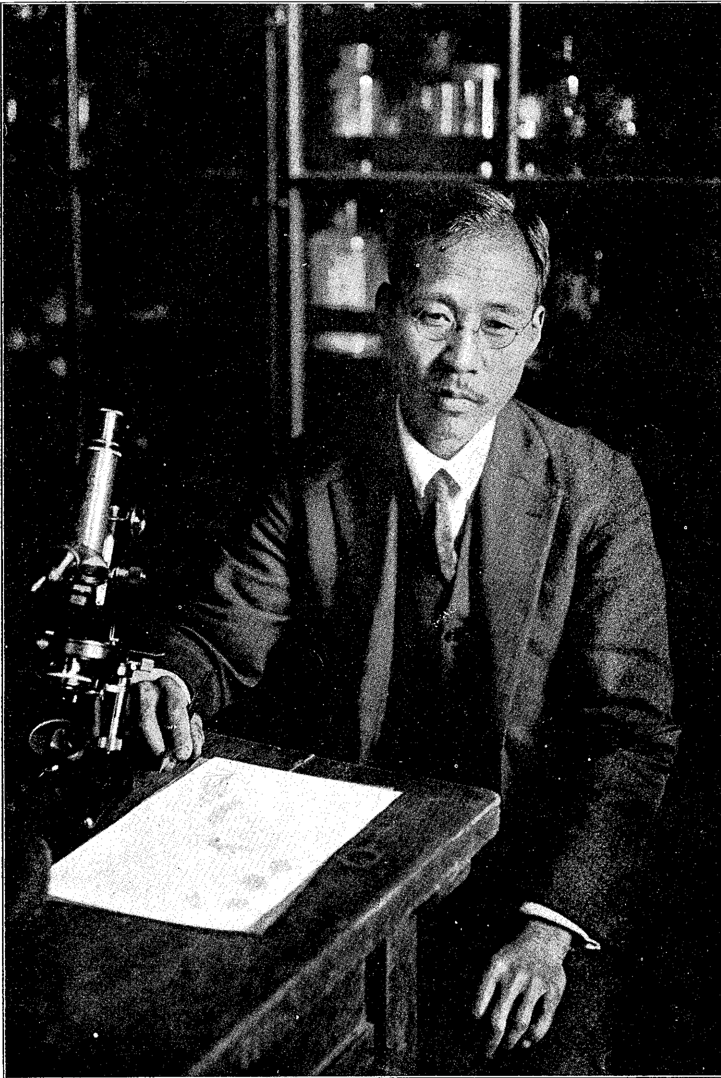
余ハ天下無名ノ一人トシテ、同ジク無名ノ學究デアル緒方正資君ノ大著『日本羊齒類圖集』ヲ江湖ニ紹介スル

著者緒方君ガ東京帝國大學醫學部藥學科員トシテ、朝比奈泰彥教授ノ主宰スル生藥學教室ノ人トナッタノハ大正七年デアッタト聞ク、當時緒方君ハ既ニ邦内諸州ノ植物ニ通ジ特ニ本邦西南部、琉球及ビ臺灣ノ植物ニ精通シテ居タノデ氏ハ朝比奈博士ヲ佐ケテ教室ニアリテハ標本ノ製作整理ニ沒頭シ時ニハ各地ノ山川ニ親ンデ其間幾多ノ草木ニ接シタ其爲メ氏ノ新發見ニ上リ始メテ學界ニ知ラレタモノモ尠クハナカッタ

マタ學生ノ採藥ニハ常ニ指導ノ任ニ當リ現時ノ藥學士ニシテ氏ノ教化ニ浴シナイモノハ極メテ鮮イ程デアル、コノ樣ニ多忙ナル公務ノカタハラ氏ハ年來最モ深キ興味ヲ有セシ羊齒(しだ)類ヲ本邦ノ領域内ニ求メ自カラ之レガ蒐集ニ從事シ且其ノ研究ニ入リ遂ニ一々其寫生ヲ試ミ始メ、孜々トシテ倦ムコトヲ知ラズ其結果十數年間ニ數百ノ寫生ヲ敢行スルニ至ッタ

氏ノ此ノ擧タル、モトヨリ何等特別ノ目的ヲ有セズ、タヾ自己ノ研究慾ノ滿足ヲ滿タス爲メデアッタ、サレバ彼ノ爲ス所ハ全ク時間ヲ超越シ勞力ヲ無視シ超然トシテ名利ノ域外ニ立チ、ヒタスラ自己ノ滿足スル圖ヲ作製スルコトニ熱中シテ居タノデアル

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル



『日本羊齒類圖集』ノ著者緒方正資君

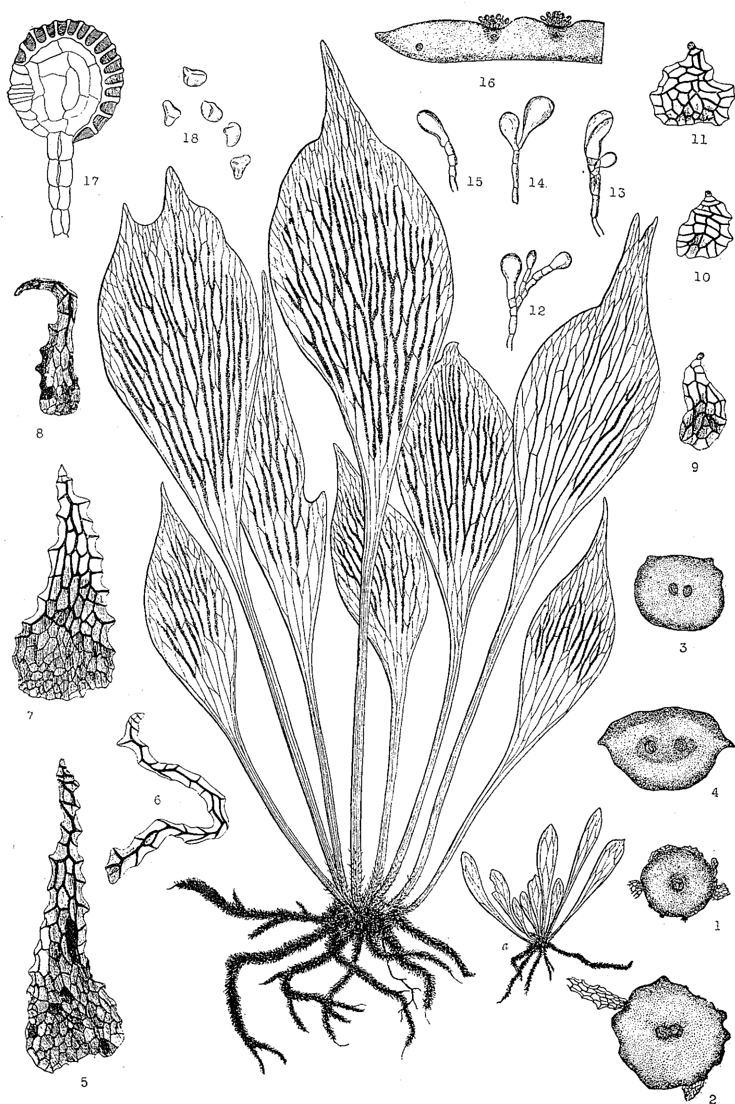
Mr. MASASUKE OGATA, Author of "Icones Filicum Japoniae."

(昭和四年三月東京帝大藥學教室ニテ撮影)

此クノ如クニシテ『日本羊齒類圖集』ノ原稿圖ハ自己モ人モ氣付カザル間ニ多數ニ達シタ、恐ラク過去ヲ顧ミテ氏ハ感慨無量デアラウ

斯クシテ世ニ出デタルモノ

緒方正資氏著『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スル

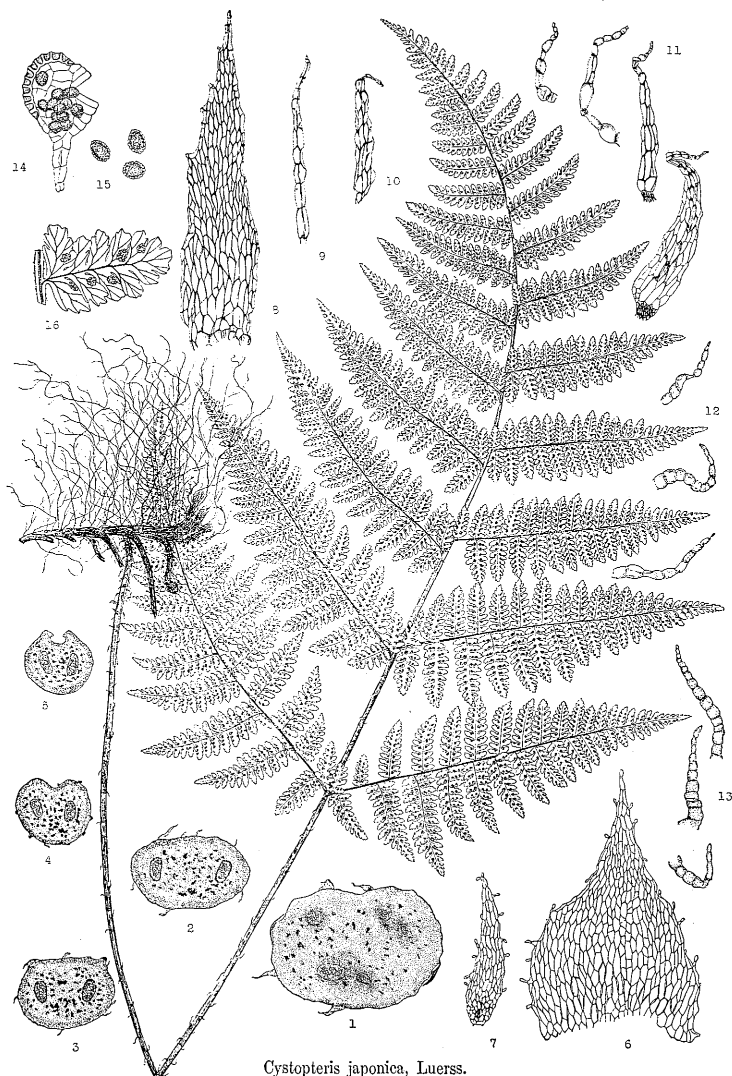


Antrophyum japonicum, Makino.

M. Ogata, del.

たきみしだ

『日本羊齒類圖集』第一輯中ノ一圖面　(縮小)



Cystopteris japonica, Luerss.
うすひめわらび

『日本羊齒類圖集』第一輯中ノ一圖面（縮小）

デアル以上『日本羊齒類圖集』ニ名利ノ臭ハ其痕跡ダニ無イノハ當然デアル總テ賣ランガ爲ノ書ニハ名利ノ臭ハ影ノ形ニ添フ如キモノデアル、名利ノ背景ヲ有スルモ

ノニハ、ハナモチナラヌ何物カヾアル、ドコトナク其臭味ガアル、略筆ガアル、マタ多少ノ誤魔化シモアル、然ルニ緒方君ノ書ニハ其レガナイ、絶無デアル

氏ハ元來ガ着實一點張リノ性格ノ持主デアルカラ氏ハ名利ノタメノ仕事ハ到底ナシ得ナイ人間デアル、サレバ氏ハ全ク自己ノ滿足點ヲ標準トシテ出發シテコヽニ達シタノデアル

何人ト雖モ利益ヲ目安トシテヤル以上自己ノ滿足セザルモノヲ世ニ問フ樣ナ結果ニ落ツルノハ當然デアルガ名利ヲ離レテ自由ノ境地ニ活動シタ時始メテ自他共ニ滿足スル程度ノモノガ出來上ルノモマタ當然デアル

余ハ『日本羊歯類圖集』ヲ紹介スルコトニアタリ何事ヨリモ先ヅ第一ニ世ニ知ラセタイノハ以上述ベタ來歴ト氏ノ態度トデアル

緒方君ハ與ヘラレタル時間内ニ與ヘラレタ丈ノ事ヲ成就シテ獲得シ得ル樣ナ肩書ノ所有者デモナケレバ、馬車馬ノ如ク人ノ指揮命令ニ默々トシテ圖ヲ描クヲ以テ能事トスル圖工ノ樣ナ人柄デモナイ、卽チ型ニハマリタル人物デハナイ、彼ハ熊本縣人ノ典型ト謂フベキ不羈獨立ノ精神ノ所有者デアル、故ニ氏ノ描出シタル圖上ニハ氏ノ人格ガ躍如トシテ現レテ居ル

古來評論家ノ多クハ著者ノ人格ノ表現サレテ居ル作品ニ對シ異狀ナル興味ヲ見出シテ居ル如ク吾人モ今コノ書ニ於テ異狀ナル興味ヲ見出サズニハ居ラレナイ

コノ書ハ更ニ續刊サルベキ七集中ノ第一集トシテ昨冬出版サレタモノデ邦產羊歯類ノ五十種ヲ揭ゲテ居ル、然シテ其圖ハ皆實物大デ高サ一尺三寸横一尺ノ大形本デアッテ、各圖ニ相對シテ解說ガ付シテアル、表裝モマタ內容ニフサハシク且優美デアル

マタ各圖ノ材料トシテ用ヰラレタルモノハ標本トシテ氏自カラ保有シテ居ルモノデアルカラ實物ニ對スル原圖ト共ニ原圖ニ對スル實物ガ氏ノ手元ニ保存サレテ居ルノデアル、カクノ如キハ氏ノ如キ人ニシテ始メテ可能デ

アル

人或ハ言フカモ知レナイ、氏ノ圖ハ余リニ寫生的ニシテ雅味ガナイト、余モマタ之ヲ肯定スル、シカシ其處ニ氏ノ人格ノ表現ガアルノミナラズ學術的寫生圖トシテ貴イ生命ガ存スルノデアル、卽チ學術的良心ヲ有スル人ノ圖トシテハコレガ至善最良デアル

若シコノ圖ガ所謂繪心ノアル人ノ圖デアッテ藝術的野心ノ樣ナモノガ伏在スル圖デアッタナラ其レハ甚ダ價値ノ尠イモノトナル

氏ハ務メテ主觀ヲ退ゾケ嚴然トシテ客觀的態度ヲ維持シ實物ヲ實物トシテ紙上ニ表現セントシタモノデアル、其爲メ緒方君ハ人知レヌ苦勞ヲ重ネ幾多ノ時間ヲ費シタノデアル、此ヽニ此ノ圖ノ生命ガアル、畫工ノ技ト異ルトコロガアル、彼等ノ模放シ能ハザルトコロガアル、サレバ本書ハ明治、大正、昭和ノ三代ヲ通ジテ出現シタ各方面ノ多クノ巨篇、名作ト比肩シテ、時代ヲ超越シテ存在スベキ資格ト運命トヲ十二分ニ具有スル名作デアルト言ヘヤウ

余ハ氏ノ書ヲ紹介スルト稱シテ余リニ多ク氏ニ就テ述ベタ、然シ余ハ氏ノ人トナリト氏ノ態度トヲ紹介スルヲ以テ『日本羊齒類圖集』ノ本質ヲ紹介シ得ルト信ズルカラデアル

尙此ノ書ノ上梓セラルヽニ至リシ經路ヲモ併セテ紹介スル卽チ此ノ書ハ營利的ニ刊行サレタモノデハナイ、マタ非賣品トシテ人ノ手ニ入リ易カラザル出版物デモナイ、然ラバ著者ノ自費出版物カトイフニソーデモナイ、卽チ其費用ノ全部ハ大阪市ニ於ケル本邦藥業界ノ重鎭武田長兵衞氏ノ出資ニ依ッタモノデアルガ其レガマタ尋常一樣ノ出資振リデハナイ

武田氏ハ緒方氏ノ事業ニ感奮シ且ツ此ノ書ノ世ニ出ヅルヲ以ッテ學界ヲ稗益スルモノナルヲ察シ著書ニ出版ヲ慫慂シテ無條件ニテ出版費ヲ提供シタノデアル

此ノセチ辛キ澆季ノ世ニ於テ斯クノ如キ著者ノ存スルサヘ既ニ異數ナノニ更ニカヽル出資者ノ出現シタルハ現代ニ於ケル奇蹟デアルト言フモ敢テ之ヲ否定シ得ル人ハアルマイ

此ノ書一度市ニ出デテ天下好學ノ士ハ競フテ之ヲ求メタ、即チ通俗ニ言ヘバ甚ダ賣レ行ガ好カッタ、海外人ハ驚異ノ眼ヲ以テ注意シテ來タ、其ノ爲メ本書ハ殘本ガ少クナリ一種ノ限定刊行物トナッタノデアルガ出資者ハ勿論半錢ノ利益ヲ求ムルサヘ敢ヘテシナイ、マタ著者ノ如キハ殆ンド利益ノ分配ニアヅカッテ居ナイ是レ此ノ書ガ一般刊行本ニ比シ極端ニ廉價ナ理由デアラウ

若シ此ノ書ノ刊行ニヨリ物質的利益ヲ贏チ得タルモノアリトスレバ其レハ印刷業者ト書肆トデアル、然モ緒方君ハ平然トシテ第二集上梓ノ準備ニトリカヽリ一言ノ不平モ洩ラサズニ居ル、此ヽニ至ッテ著者ハ當代稀有ノ奇人デアル

羊齒ハ花ノナイ植物デアル卽チ隱花植物デアル、而カシテ著者モ出資者モ隱花植物ノ樣ニぢみナ態度ヲ示シテ居ル、然カモ其レガ昭和ノ現代ニ於テノ事實デアル

當代ハ文化ノ世デアル、明治初年ノ言葉デ言ヘバ文明開化ノ世デアル、文明開化ノ明治ヨリ文化ノ高唱サレル昭和ノ現代ニカケテ名實相伴フ文化事業デ、然カモ後世ヲ裨益スルモノガ、甚ダ多カッタニハ相違ナイニシテモ緒方、武田兩氏ニヨリ吾人ノ眼前ニ公開サレタルコノ事業ハ正ニ古今東西ニ誇ルニ足ル文化事業ノ一トシテ取扱ハルベキ性質ヲ多分ニ有スルモノデアッテ人文發達ノ上ニ貢獻スルモノデアル

以上、イサヽカ裏面ノ事情ヲ發表シテ『日本羊齒類圖集』ヲ紹介スルコトヽシタ、是レ徒ラニ世間人ノ購賣慾ヲ促進サセル樣ナ目的ヲ以ッテコノ書ノ紹介ヲ書クコトハ俳聖芭蕉ガ正札ヲツケテ店頭ニサラサレタル自然ノ美術品ニ對シ「白魚に價あることそ恨みなれ」ト詠マレタト同樣ナ感ジガ余ノ胸ノ中ヲ往來スルカラデアル（殘本ガ多少丸善ニアル）